



〈編集・発行〉
独立行政法人 国立病院機構
奈良医療センター
<https://nara.hosp.go.jp/>

リエぞん

Liaison

vol.41

独立行政法人国立病院機構 奈良医療センター

令和2年1月

医療関係者の皆様へ 「リエぞん」(Liaison)とは、フランス語で「連携・つなぐ」といった意味をもちます。奈良医療センターは、地域の医療機関との連携を深め地域医療の推進に努めていきたいという思いで付けました。

病院理念

私たちは、質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援することにより、信頼される病院を目指します

令和2年度 病院目標

呼吸器疾患と神経疾患を中心とした「面倒みのよい病院」の機能を高める

Resort hospitalをめざして

院長 平林 秀裕



新年あけましておめでとうございます。

年末年始をどのようにお過ごしになりましたか。有名人の人達と同じようにハワイで過ごされた方もいるでしょう。ハワイといえば、南海の楽園 resort 保養地の代表ですね。皆さんは「resort」の意味をご存知でしょうか。Resortの語源は「繰り返し行く」という意味ですが、その他の意味として行楽地、訴えること、頼ることや他の手段がなく最後の手段という意味もあります。

当院は、一般的な病院に比較して、長期に渡って療養を余儀なくされる難しい病気の患者さんがたくさん入院されています。

例えば、「となりのトトロ」サツキとメイのお母さんが入院していた時代の結核は、1年以上の入院が普通でしたが、現在では3週間～2か月で退院できるようになりました。しかし依然として長期療養が必要なことが多く、当院は県下唯一の医療機関としての使命を果たしています。

神経難病では、筋ジストロフィー、パーキンソン病やジストニアの患者さんがたくさんおられます。筋ジストロフィーは、映画「こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話」でも紹介されたように病と闘う患者さんと共に医師、看護師、療養介助専門員も日夜闘っています。

パーキンソン病やジストニアでは、薬物療法やリハビリテーションは勿論のこと、最新の脳深部刺激療法という外科的治療で患者さんを治しています。この手術は、奈良県内はもとより近隣の他府県からも多くの患者さんが来られ、手術件数は国内屈指です。

てんかん診療では、多くのてんかん専門医が集い、ビデオ脳波モニタリングや手術等の高度な医療を行っており、奈良県におけるてんかんの拠点病院としての役割を担っています。

薬が効かない難治性疼痛の患者さんには、脊髄電気刺激療法などをおこなっています。

脳卒中後の痙縮は、日常生活の妨げとなりますが、当院ではリハビリテーションの他にバクロフェン髄注療法やボトックス療法で積極的に治療しています。

重症医療では、humanityをモットーとし、県下の指導的な医療機関たるべく努力しています。

このように当院で行っている医療は、他の医療機関では診療が困難な疾患が多く、最後の砦としてresort hospitalの役割を担っているのです。これらの重要な役割を認識し、これからも職員が一丸となって信頼されるresort hospital を創り上げていく所存です。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

Contents

- Resort hospital をめざして ————— 1
- 今年も行いました！災害実動訓練 ————— 2
- クリスマスコンサート ————— 3
- 最新の骨密度測定装置を導入しました ————— 4
- 「奈良県難病診療専門支援病院（神経・筋疾患部）」の指定を受けて ————— 5
- 着任ご紹介 ————— 5
- 連携施設のご紹介コーナー VOL.3 ————— 6

今年も行いました！災害実動訓練

診療放射線技師長 岩井 康典

当院において昨年に引き続き、令和最初の9月14日に災害実動訓練を行いました。当日は天候にも恵まれ、訓練をするには快適な気温と湿度の中、職員86名と昨年に引き続き院外からボランティア（患者役）として白鳳短期大学の学生さん50名を加えた過去最高の参加者となりました。災害設定は南海トラフ地震によるマグニチュード9クラスの地震が発生し、奈良県北西部は震度5強と想定。臨場感あふれる訓練となりました。



Opening

災害対策本部



火災発見！消火開始！



避難・病棟移動

Ending



重心患者の受入



トリアージ



今年度は、昨年度の訓練（火災対応・病棟避難）に加え、新たに地域の重症心身障害児（者）の受け入れを想定し、訓練を行いました。また、ここ数年企画から運営まですべて当院のスタッフで行い、より実践に近い訓練となり、年々レベルアップし充実しているように感じます。

最後に、新年度（令和）のスタートを機に既存の災害マニュアルからBCP（Business Continuity Plan：事業継続計画）を起案しました。今回、BCPに基づき訓練を行い、反省点・改良点が多々ありますが、より高みを目指し、災害発生時には地域のみなさんの安全に繋がるよう活動いたします。また災害時には診察機能の維持、そして治療が提供できるように、地域に根差した病院として一層努力をしていきます。

クリスマスコンサート

患者サービス向上委員会 主任理学療法士 林田 佳一



今年も、恒例のクリスマスコンサートを12月18日（水）に開催いたしました。毎年楽しみにして下さっている方も多く、会場には1時間前から患者さんやご家族の姿が見え始め、コンサート開始時には満員御礼の大賑わいでした。

京西中学のギター・マンドリン部の学生さんの演奏から始まりました。マンドリンと、クラシックギターの優しい音色に、会場は一気にコンサートムードに包まれました。「せんとくろーす」と可愛いサンタの衣装を着た職員有志による、ホルンやピアノ・サクスの演奏では、楽しい冗談も交えつつ、アンコールでは皆で「きよしこの夜」を歌いながら会場が温まるひと時でした。最後の西ノ京高校吹奏楽部の学生さんの演奏では、圧巻で患者さんもお家族も聞き入っていました。コンサートが終了し、病室へ戻っていく患者さんや、ご家族の方からは笑顔で「ありがとう」と声をかけて頂きました。入院生活の中で少しでも楽しいひと時を過ごして頂けたと感じました。出演して下さいました学生の皆様ありがとうございました。





骨密度測定装置を 導入しました



●骨密度測定を受けてみませんか

●骨粗しょう症をご存じですか？

骨粗しょう症とは、骨が粗（あらい）の状態、簡単に言うとスカスカの状態に変化してしまう病気です。そのように変化してしまうと骨全体の強度が著しく低下し、重度の場合には日常生活をおくっているだけでも骨折してしまう状態に陥る危険性があります。寝たきりの原因の第一位が脳卒中、第二位が老衰、第三位が骨粗しょう症による骨折とされています。女性は、ホルモンバランスが変化する閉経後、骨量が減少しやすいと言われており、骨粗しょう症になってしまう方の割合が多くなると言われています。男性は、女性に比べると骨粗しょう症になってしまう方の割合は低いと言えますが、加齢とともにカルシウムの吸収がしにくくなる為、70歳を過ぎると骨粗しょう症になる方の割合が高くなります。

骨粗しょう症は“静かな病気”と言われるように初期症状に自覚症状は全くありません。進行して脊椎変形による症状（腰が曲がる、身長が低下する、腰痛など）が現れます。

骨粗鬆症の症状



背中が丸くなる



身長が縮む



立ち上がる時に
背中や腰が痛む



背中や腰の痛みで
家事が辛い

●「自覚症状が無いってどうすればよいの？」 「私は大丈夫？」と思われた方

一番大切なことは現状を知ることです。骨密度検査は無症状の初期の骨粗しょう症を発見することが可能です。当院では日本骨粗鬆学会のガイドラインでも推奨されているDEXA法を用いた正確な骨密度測定を行っています。骨粗しょう症を早期に発見し、早期に治療を行うことにより快適な生活を送ることができます。検査は仰向けに寝て約10分程度です。骨粗しょう症が心配な方、またそうでない方もチェックをしてみたいはいかがですか？

お問い合わせ先

国立病院機構 奈良医療センター

奈良県奈良市七条2-789

TEL 0742-45-4591 (代表)



「奈良県難病診療専門支援病院（神経・筋疾患群）」の指定を受けて

診療部長（脳神経内科）

松村隆介



このたび令和元年10月24日付で、
当院は「奈良県難病診療専門支援病

院（神経・筋疾患群）」の指定を奈良県より受けました。これは、奈良県の
難病医療提供体制整備事業に基づくものです。

神経・筋難病患者は、長年にわたる闘病生活の中でさまざまな問題に直面す
ることになります。これらの問題をいかに解決していくかは決してマニュアル
通りではうまくいかず、多職種が連携をとりながら患者・家族とも一緒に
なって考え対応していくことが求められます。当院には、長年にわたり培ってきた神経・筋難病に対
する診療のノウハウがあり、これが指定につながったものと思っています。

また一昔前までは、神経・筋難病というと治らない病気の代名詞で
したが、近年、パーキンソン病に対する「脳深部刺激療法」や脊髄性
筋萎縮症に対する「スピラザ髄注」といった病気を完全には治せな
いまでも症状を改善させることが出来る治療法が次々に開発されてい
ます。奈良県難病診療専門支援病院として、これらの新しい治療法も
積極的に取り入れながら、今後とも取り組んでいきたいと考えていま
す。



着任ご紹介



熊本 牧子

2019年10月に着任いたしました。これまで呼吸器疾患、アレ
ルギー疾患を専門とし、間質性肺炎の研究をして参りました。当
院では専門領域はもちろんですが、内科全般も広く診療してい
きたいと考えております。患者様ひとりひとりに対して、じっくり
腰を据えた全人的な医療を提供できるのが当院の強みと感じてお
ります。どうぞよろしくお願いいたします。

趣味：美味しいものを食べること、コンサートに行くこと
特技：聞いた曲をピアノで弾けること

長谷整形外科クリニック

長谷 隆生 院長

当院は平成21年6月整形外科専門のクリニックとして藤ノ木台4丁目に開院しました。開院当初から地域の皆様に暖かくお迎え頂きましたお蔭で、今年で11年目を迎えております。受診される患者さんの年齢や病態は誠に幅が広く、歩き始めたばかりの小さいお子さんの怪我の処置から、御高齢の方の骨粗鬆症の治療まで、運動器に関わる問題よらず一切の診療を行っております。中でもやはり最近の高齢社会の影響で、腰部脊柱管狭窄症や変形性膝関節症、さらに骨粗鬆症とそれに伴う脆弱性骨折の患者さんが増加の一途をたどっています。これらの疾患に適切に対処することが地域の皆様の健康寿命の増進に不可欠であると考え、日々の診療に精進しております。国立病院機構奈良医療センターさんにはMRIなどの各種検査をはじめ、病状によっては入院や手術をお願いしており、大変お世話になっております。今後とも緊密な診療連携をお願いしたいと存じます。



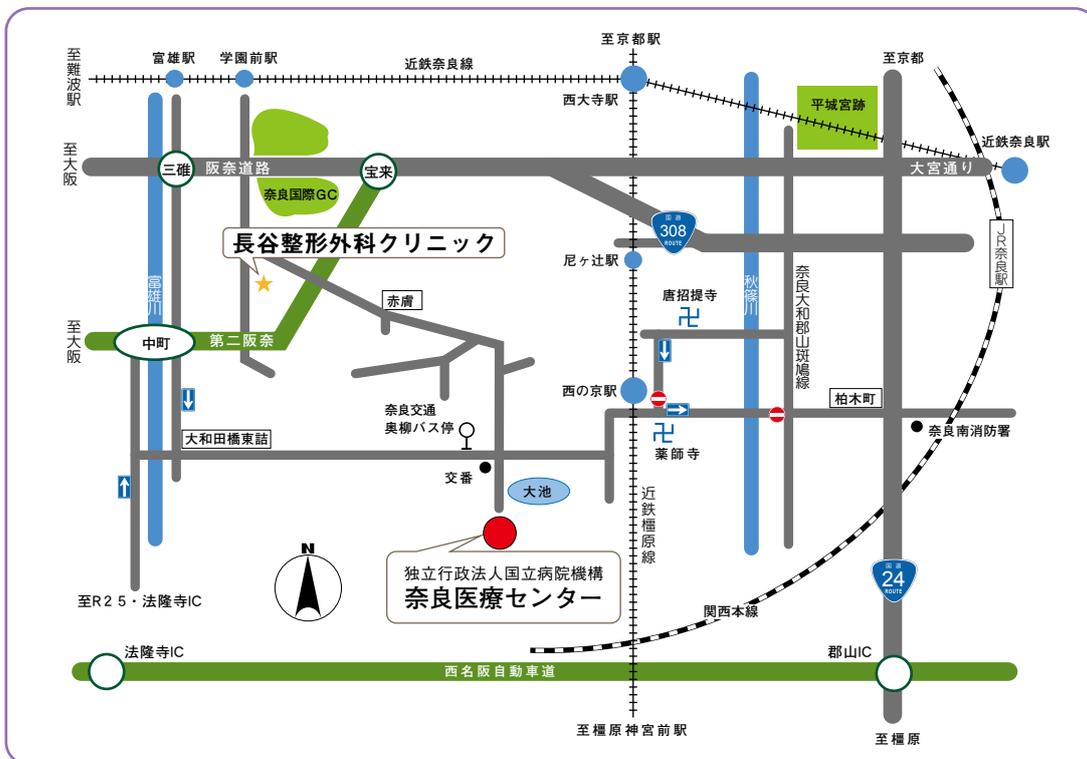
診療科目：整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科

診療時間：月曜日～木曜日 午前診 9：00～12：00

午後診 16：30～19：30

土曜日・日曜日 午前診のみ 9：00～12：00

金曜日と祝日は休診



独立行政法人 国立病院機構
奈良医療センター
地域医療連携室

〒630-8053
奈良市七条2丁目789
TEL.0742-45-4591 (代表)
TEL.0742-45-1563 (直通)
FAX.0742-45-4901 (直通)